



Title	特殊講義案：都市と村落
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1966
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77375
Type	manuscript
Note	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
File Information	N029_01S36.pdf



[Instructions for use](#)

Superior Note Book

社会学研究法

東洋大学大学院
修士退学

社会学演習

昭和二十六年夏



SA4

TOKYO B.B.B.

これ以前は社会生活の三つの基本的な

枠組であつた。その家族、聖職、宗教、及び

市民社会の各々におつた市民の命題である。

そんなものが同じとなつてゐるか、又それ

の枠組の各々で居る家、現象となつたか、現在

では同じとなつてゐるか、現象か、それは

加藤や研究論文を書く場合の注記

の研究テーマをさかすのに異しはなす。得

たとへば、清から左の枠組を解つたので

ある。それか、その場合それと別の枠組を解つたのか、

それと別の枠組の枠組についての私自身

の理解は既に著書に於いて公にしてゐる。

種々のものはあつた。それは

これと。

あつた。先生の文にはまじく「論」といふ人々

あつた。又、^{一般}論の多くは正確に

の所説を視解し、^{一般}論の多くは正確に

して、人ばかりさう。

そんな事でもあつた。せめて私に直接

教授す。徳君には正しく視解し、世のう

に、^先の三つの持論の各々、^私の

論旨の中核部門を、^{たい}向けて示す

果也。それ、^私の私の^{たい}私の

家、^私の私の^{たい}私の

都、^私の私の^{たい}私の

を、^私の私の^{たい}私の

と、^{たい}私の

一事、^{たい}私の^{たい}私の

年の格、^{たい}私の^{たい}私の

立つ格、^{たい}私の^{たい}私の

に行、^{たい}私の^{たい}私の

部、^{たい}私の^{たい}私の

比、^{たい}私の^{たい}私の

茶、^{たい}私の^{たい}私の

は、^{たい}私の^{たい}私の

の、^{たい}私の^{たい}私の

現、^{たい}私の^{たい}私の

の、^{たい}私の^{たい}私の

※私は宗社、村落都市及人口民の各
の四つの基本的枠組について著書撰。

又いふの如く、人口民を以てしての著
すは、私自身未だ一と二つあるが、
決定的な進歩を遂げようとするが、
この二つの民権を以てして、
場の全くとらへた場合もあつた。

即ち一九四四年、これら

私は未だに著す一年間は本大で終り
用いた。これより先は本大で終るものもこれに

宗社、村落、及び都市に同す。

研究の内で特に著書は、
研究に利用される後、
や方法についてはその點を力にのこ
若干いろいろおけへ説明した。

才二年間は先におけへる點にせわす
の三つの基本的枠組におけは日本の
現在の政治の大木、
研究に用いておけへるの二つ、
は、
考へるの基本的枠組について、

考へるの基本的枠組について、
考へるの基本的枠組について、

余の分析は、^{自之性}社会的な形式にお
ける分断、^{自之性}用期性、^{自之性}家の精
神と^{自之性}社会的な形式の相
の理解のため。

「おけ」余の主張

一、家族社会の習俗

守りぬ

一、家族形態の分断、余の三分法、世界的

二、家族の用期性、^{自之性}云々

三、家の能率と家の精神

四、家の自立性

自之性

五、同族の関与、余の分析、^{自之性}時上の

六、最近の^{自之性}日本の生活、^{自之性}世多、^{自之性}又細化

私の研究は、外人の著者と口説き交

地域的集積の意味

各種の社会的統制が働きしこころの統

一より完結的統制の地帯を現はしこい

了場合の成長率の相互の認めあ

この社会的統制の形は

同一地域に多くの異同が

氏族の間に地域を介して村と村とへ

ぬ。おぼろしく始められたり、別の家

親が支配する。その別の親は力による。

支配が、合親による切迫力かである。

村落となり、その政治体となる。

以後は宗族団体、村落は政治体。

一、村落の社会的統制の地帯を現はしこい

の認識と社会的操作

(共同統制)は村落の統制によるもの

の認めしこい。これは下部構造にかた

措置を支配するもの

二、村の精神は社会意識の相互作用

統一の村

三、各種の社会的統制

四、村落の社会的統制

集団分析による中村社会の業は大

つた。

R.K. Merton "Social Theory and Social Structure" 1949

余の訳書は1940

私の訳書は原理と要諦を
重視し、種々世間的に

社会的
共同性
を有する
社会の場
合、標榜
的地位
に在る
者の家
庭を
構造的
に分析
する
こと
が、
この
研究
の
目的
である。

五、社会構造・生活構造・社会
地区、生活地区の概観

現在の社会と生活を

以上十月三十一日

社会構造を見よと云ふ事はなく、社会の
第一、社会地区と自然社会と精神
との集團、本質的であり、かつ田舎である。
社会構造の下部構造（
社会構造の中心構造）
社会構造の中心構造（
社会構造の中心構造）
社会構造の中心構造（
社会構造の中心構造）

地区の取柄
中心
社会地区一、二、三

都市

生活地区一、二、三

十種の社会圏

都市圏の場合

生活と生活圏

以上十一月七日

余の

都市の要旨
都市に關する。同外

一、都市の機能

社会的交流の結晶としての機能
都市機能と機關
山村より大都市まで

十一月十四日

二、都市の社会構造

世帯と職場

正帯人口の正帯生活

大都市の正帯人口と正帯生活

三、都市の生活構造

(一) 空間的秩序

(二) 社会的秩序

都市化調査要項

a. 機関の増加、族別の増加
後者の社会には比率的上昇

b. 異質人との社会関係の増加

通勤通学人口の増加

労働者内の機関に所属する人員

秀集人員（学統及び職場）

c. 合理化の増加

任用貸借より担保、保証

人件、貸借

選考制、不文律より成

文法の採用

二用貸借（月給、年給）より
現金給与、正札費

四都市化に因り、余の既解

従来の政治学を以ての口家理解批判

- 一口家理解の端
- 一口家理解の端
- 一口家理解の端

口家分業論

口家政治の生活活動
圏とテリトリー

(口家政治の生活活動)

征服 暴圧 命令 権威 権力 無権 交力 合力 異力 協力

余の口家政治学における口家の主権

一、完結的口家としての口家政治

二、統治現象の末端より観察
して行く口家統治現象の現

三、口家政治の
協力の様式の型と力の組織

四、口家の政治と革命

五、行政集團の口家政治の基礎

行政集團の上の自然集團累積の現

○ 民生学を基礎論

民生学は限られた範囲にある。経済の中には別項がある。

可成

人口分布
居住分布

職場分布

居住と職場の分布

職場の概観

交流路線

職場の集中と交流路線の集中

交流の中
交流の内容 (人と人と物)

統治と経済
その他の文化

統治の組織と経済の組織

その他の文化の組織

民生学知と生活知
民生学知と生活知

#

○ 民生生活組織

可成経済学の人と法 (学形態)

生活知における関係組織

生活地区

都市生活組織

農村生活地区

農村生活組織

生活の三層

生活知における関係組織

生活の場と職場の統合化能力

生活の場と職場

生活の場と職場の分散現象と

都市化 都市の職場と居住

※

口民治の存続の場力に安定を以てしよ
のは口民の武力 武力組織としての口民
承明の現界と革命

統治組織の上に格々の集団治知の
標。 典据力に格々の集団治知の
上。 統治組織が基礎的集団となり
上。 統治組織の集団の集団と有り
としての口民。 口民は口民の上に
あよむる統一。
標